

令和7年度

各務原市・人権擁護委員各務原部会共催

# 人権学習会(映画上映)を開催しました

岐阜人権擁護委員協議会 各務原地区部会



日 時 令和7年11月20日(木) 14:00~16:00  
場 所 各務原市産業文化センター あすかホール (人権学習会)  
エントランスホール(人権パネル展)

## 解説・あらすじ

世界で初めて盲ろう者の大学教授となった東京大学先端科学技術研究センター教授・福島智さんと母・令子さんの実話を基に描いた人間ドラマ。

関西の町で教師の夫や3人の息子とともに暮らす令子。幼少時に失明した末子の智は家族の愛情に包まれて天真爛漫に育ち、東京の盲学校で高校生活を送るが、18歳の時に聴力も失ってしまう。暗闇と無音の世界で孤独にさいなまれる智に希望を与えたのは、令子が彼との日常から考案した新しいコミュニケーション手段「指点字」だった。母子は勇気を持ってひとつずつ困難を乗り越え、人生の可能性を切り拓いていく。

「見えない! 聞こえない! それでも、私たちは光を見つけた。」

誰もが、尊厳をもって生きられるよう、互いに支え合い、共に生きる社会を実現するために、私たちはどのようなことができるでしょうか。

各務原市と共催で、人権の大切さについて改めて考える機会となるよう、「人権学習会」を開催しました。



当日は、約250人が参加し、映画「桜色の風が咲く」を通して、見えない・聞こえない状況で、人はどうやって「言葉」と「人」とつながれるのか。映画と当事者の語りから、コミュニケーションの本質や、多様性と共生について改めて考えることができました。いろいろな人権課題があるなか、障がいのある方の人権、「盲ろう者」の方との接し方についても、この映画を通して学ぶこともできました。

また、同時に「人権パネル展」を開催し、「人権学習会」に参加された方にも人権に関する具体的な課題を紹介しました。



人がいる限り、人権はいつでもどこでも存在しますが、普段その人権に気づくことは少ないのではないのでしょうか。この学習会で、改めて人権について考えてみました。

